

海外自治体幹部交流協力セミナー2022（パリ事務所管内）

事業概要

テーマ：

- ① 地域資源保護のために、今できること。
- ② 地域産業と観光の連携。地域資源のブランド化による誘客促進への取り組み
- ③ コロナ禍による観光振興対策事業（ワーケーションの勧め、マイクロツーリズム）
- ④ 女性の活躍。海女文化から紐解く、男女共同参画への取り組み

海外参加者数：7名

ペイ・ドウ・リュール・コミュニティ共同体 事務総長	プラントヴァン・ベルトラン
イクセル・コミュニティ（ブリュッセル）事務総長	ヴァンデルレイン・パトリシア
ラ・ベルヌリー・アン・レ・コミュニティ 事務総長	ドウベック・ユーク
シャントピー・コミュニティ 事務総長	ソルニエ・ジル
ペイ・デリクール・コミュニティ共同体 事務総長	ヴリヤック・ファブリス
ランジス・コミュニティ 事務次長	ル・ゴフ・イヴ
ドウアルヌネ・コミュニティ共同体 事務総長	シモン・サンドリーヌ

日程：

日程	内容
11月6日（日）	○来日・オリエンテーション
11月7日（月）	○視察：東京都庁舎、伝統工芸青山スクエア、皇居前広場 ○CLAIR 主催歓迎夕食会
11月8日（火）	○講義：日本の地方自治について（明治大学木村俊介教授） ○視察：浅草エリア・仲見世
11月9日（水）	○移動：鳥羽市へ ○表敬：中村鳥羽市長表敬 ○講義：鳥羽市行政説明 ○鳥羽市主催歓迎レセプション
11月10日（木）	○視察：ミキモト真珠島、はちまんかまど、海の博物館 ○行政説明：海の博物館 ○説明：海女トーク
11月11日（金）	○視察・行政説明：鳥羽市水産研究所 ○プレゼンテーション・ディスカッション ○移動：答志島へ ○説明：寝屋子制度について

11月12日(土)	○視察：答志島内 ○意見交換会 ○CLAIR主催帰国前夕食会
11月13日(日)	○視察：伊勢神宮（外宮、内宮）、おはらい町、おかげ横丁、鳥羽駅周辺（鳥羽マルシェ、鳥羽1番街）
11月14日(月)	○移動：東京へ
11月15日(火)	○帰国

【東京セミナー：11月6日(日)～8日(火)】

(1) 視察：東京都庁舎、伝統工芸青山スクエア、皇居前広場

午前中は、東京都庁舎を訪問した。都庁見学ツアーガイドの案内のもと、東京2020オリンピック・パラリンピック展示コーナー、議場、展望台を見学した。議場では、議員の選ばれ方や男女比等、自身の自治体と比較するような質問が多数あった。

伝統工芸青山スクエアでは、日本各地の工芸品が展示、販売され、参加者たちは興味深く見入っていた。

皇居前広場では、のんびり散策したり、記念撮影をしたりと楽しんでいた。



(2) クレア主催歓迎夕食会

赤坂エクセルホテル東急にて開催。参加者の出身自治体に関することや、セミナーテーマ、日本の印象など、活発な意見交換が行われた。



(3) 講義：日本の地方自治について

明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科、木村俊介教授による日本の地方自治に関する講義を受講。地方自治制度に関する日仏の類似点や相違点に関心を持ち、日本の人口減少や東京一極集中に対する対策や町村合併等について質疑応答があった。



【鳥羽市セミナー：11月9日（水）～13日（日）】

（1）鳥羽市役所訪問

鳥羽市へ到着後、市役所へ移動。職員の皆さんに温かくお出迎えいただいた。



（2）中村鳥羽市長表敬

中村市長からは、鳥羽や海女の魅力、2019年にフランスを訪問し、海女をPRしてきたこと、本セミナーの開催を心待ちにしていたことなどの話があった。

参加者に対して、鳥羽市の第一印象を質問したところ、参加者からは穏やかな気候や温かい人柄をもうすでに感じている。滞在中により深く鳥羽を知り、体験したいとの返答があった。



（3）自治体概要説明

鳥羽市観光課のカゾ・ポーリンさんから、PR動画等を用いて、鳥羽市の魅力や海女文化について説明があった。

フランス出身のカゾさんは、2021年10月から国際交流員として鳥羽市に勤務し、観光誘客を目的に、市内の観光名所や日常の風景等を、SNSを通じてフランス語で発信しており、今回の参加者に対しても、フランス人、外国人観光客、在住者それぞれの目線で、わかりやすく説明していただいた。



（4）鳥羽市主催歓迎レセプション

参加者たちは、鳥羽志摩地域が誇る海産物や農産物を満喫した。各テーブルに分かれ、参加者、鳥羽市側双方から質問が飛び交うなど終始和やかな雰囲気だった。

レセプションの後半では、郷土芸能の九鬼水軍太鼓（くきすいぐんだいこ）が演奏され、参加者も飛び入り参加し、楽しい時間を過ごした。



(5) 視察：ミキモト真珠島

真珠は鳥羽地方の代表的な特産品であり、フランスでも人気の高い。養殖真珠の製造工程の説明や海女さんの実演など、参加者の関心を引いていた。

また、フランスで待つ家族へのお土産を真剣に選ぶ様子も見られた。



(6) 視察：はちまんかまど

現役の海女さんによる温かくお出迎えいただき、その日の朝に獲れた魚介をその場で調理していただき、舌鼓を打った。

その後海女さんから、一日のライフスタイル、漁に関するルールなどをお聞きし、80才代でも現役の方がいらっしゃることや冬でも潜っているということに、一同驚いていた。



(7) 視察：海の博物館

鳥羽市海域で獲ることができる海産物や日本各地について説明を受けた後、国内外で実際に使用されていた船を見せていただいた。



(8) 説明：海女トーク

現役の海女さんお二人からお話を伺った。

女性の参加者からは、海女になったきっかけ、妊娠、出産、育児に関することや海女の後継者や海女文化の今後のことなどの質問があり、それに対して、お二人は一つずつ丁寧にお答えいただいた。



(9) 説明：鳥羽市水産研究所

職員から、海苔やわかめの養殖や海洋環境等について、水槽や海を見ながら説明していただいた。

国内でも珍しい市立の水産研究所を視察する貴重な機会となった。



(10) プレゼンテーション・ディスカッション

参加者から、自身が所属する自治体の施策（男女共同参画、海洋環境、観光）に関するプレゼンテーションが行われた。

鳥羽市からはプレゼンテーション及びセミナーテーマに関連する担当課の職員にご参加いただき、プレゼンテーションに関する感想が述べられた。

参加者からは観光、教育、人口減少、過疎など市政全般にわたる様々な質問が投げかけられ、活発な議論が行われた。



(11) 説明：寝屋子制度について

答志島の答志地区に日本で唯一残る「寝屋子制度」

(※) について、経験者から説明を受けた。フランスにも類を見ない制度とのこと。参加者からは、なぜ始まったのか、なぜ今では答志島にしか残っていないのか、今後この制度はどうなっていくのか、プライバシー等の観点から抵抗はなかったかなど様々な質問があった。

※寝屋子制度とは、中学校を卒業した男子数名（5～6名）を「寝屋親」と呼ばれる地域の世話役が預かり、寝屋親の家の一室を借りて寝泊まりさせ、戸籍上のつながりのない者同士が、実の親子・兄弟のように絆を深める制度。

答志地区は、古くから漁師町であったため、漁そのものや船掃除など、大勢の人々が協力しないと成立しない作業が多く、それがこの制度が今日まで存続している一つの要因であると考えられている。



(12) 視察：答志島

島の方に案内していただき、海岸部、船着き場、神社、住宅街などを散策した。自分たちが住んでいる地域と大きく異なる島の様子に興味津々の様子であった。



(13) 意見交換会

セミナーの締めくくりとして、鳥羽市長出席のもと、帰国前意見交換会を開催した。参加者から、鳥羽市の良いところ（強み）、悪いところ（弱み）、今後の課題、今後のチャンスになる点などについて、海外からの観光客の目線に立ち、忌憚のない意見が述べられた。

鳥羽市には、豊かな食文化や穏やかな気候などの良い面はあるが、景観（駅前や目抜き通りに古い建物や雑草などが目立つ）、看板等の外国語表記が未整備や外国人用の観光マップの不足などの課題が挙げられた。

また、外国人観光客に選んでもらうための広報媒体についても指摘があり、ヨーロッパの人が旅行するときには、トリップアドバイザーのような口コミサイトやロンリープラネットのような旅行本を参考にするので、それらへ掲載すると、誘客に繋がる可能性が広がるとの助言があった。

それを受け、市長からは、弱みや課題について、さらに掘り下げて質問した他、ご自身の経験に基づく疑問についても問いかけられた。最後に、「課題を挙げていただきありがたいと思っている。しっかり精査して、今後の海外誘客に生かしたい」との結びの言葉で会を終えた。



(14) CLAIR 主催帰国前夕食会

市長をはじめ、滞在中にお世話になった皆様に参加していただいた。一行は終始リラックスした様子で、思い出を振り返りながら、会話が花が咲いた。

終盤には、滞在中の様子をまとめた動画をサプライズで公開し、会場にいた一同が大盛り上がりだった。

